

平成 30 年度 熊本県・熊本市調整会議

日 時：平成 31 年（2019 年）1 月 21 日（月）14 時 30 分～15 時 30 分

場 所：熊本県庁本館 5 階 知事応接室

出席者：熊本県	知事	蒲島 郁夫
	副知事	田嶋 徹
	副知事	小野 泰輔
熊本市	市長	大西 一史
	副市長	多野 春光
	副市長	植松 浩二
熊本県議会	副議長	森 浩二
熊本市議会	議長	朽木 信哉

次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 協議

(1)被災者の住まいの再建（恒久的な住まいの確保）について

(2)国際スポーツ大会（ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール
世界選手権大会）の推進について

- 4 閉会

議題 1 被災者の住まいの再建（恒久的な住まいの確保）について

議題 1 の現状・課題について、資料 1 に沿って事務局から説明。

○蒲島知事

県と熊本市においては、これまでも緊密に連携しながら、被災者の住まいの再建に全力で取り組んできた。仮設住宅で生活されている世帯は、ピーク時の平成 29 年 5 月には約 2 万世帯だったが、その半数以上が再建され、現在約 9,000 世帯となっている。熊本市が約 5,000 世帯（56%）で、そのうち借上型に約 4,500 世帯（90%）が入居されている。今後、仮設住宅入居者の住まいの再建を進めていく上では、高齢者や障がい者など配慮を要する方々への支援がますます重要になる。引き続き、県・市が連携しながら、被災者お一人お一人の状況に応じて、住まいの再建に取り組む必要がある。よろしくお願ひしたい。

また、供与期間の延長については、3 年目から 4 年目は、再建先を民間賃貸住宅と

する場合は延長の要件から外れる。熊本市は民間賃貸住宅の希望者が多く大変だと思うが、私の3期目の任期中に可能な限り全ての方の住まいの再建を成し遂げたいと思っており、この1年が非常に重要。是非、よろしく願いしたい。

○大西市長

今、お話があったように、本市における仮設住宅等の入居世帯数は、昨年末時点で約5,000世帯となっており、今年3月末には、ピーク時の約3割となる4,000世帯程度になる見通しである。これまでに約7,000世帯が仮設住宅等から退去されており、住まいの再建は概ね順調に進んでいると考えている。ただ、本市には民間賃貸住宅を再建先とする世帯が大変多く、これらの世帯は再延長の対象とはならないということで、確実に再建先が確保できるよう全力で支援を進めている。また、生活に困窮する高齢者や障がい者世帯、保証人不在の世帯等、再建が困難な世帯も存在していることから、特にこれらの世帯については、熊本市各区の地域支え合いセンターであるとか、伴走型の住まい確保の支援事業を中心にしながら、それぞれの状況に寄り添った支援をさらに進めているところである。

また、災害公営住宅等の確保について、仮設住宅の被災者の方々のうち、約2,000世帯が、住まいの再建先として公営住宅を希望していることから、災害公営住宅をはじめ既存の公営住宅を提供している。

本市の災害公営住宅については、全体で326戸を整備する予定であり、今年度中に99戸が完成見込み。整備完了は、2019年末を予定している。既存の公営住宅については、市営住宅に加え、多くの被災者の方々が希望している中央区と東区において、県営住宅を活用させていただいており、概ね順調に提供を進めることができている。本市の被災者向けに県営住宅を提供いただき、改めて感謝申し上げます。引き続き御協力をお願いしたい。

○蒲島知事

災害公営住宅については、県全体でも2020年春までの完成を目指して、市町村と連携して整備を加速させている。

また、前回の会議を受けて、特に熊本市営住宅が不足している中央区と東区で、既に49戸の県営住宅を提供している。引き続き、準備可能な県営住宅を提供する予定であるので、被災者とのマッチングを進め、できるだけ早く被災者に入居していただけるよう、よろしく願いしたい。

また、再建を果たされた後も、安心して住み続けていただくため、地域コミュニティは大変重要。熊本市では、既に地域コミュニティの支援に取り組まれていると思うが、県としても、地域福祉のアドバイザー派遣や、新聞や郵便事業者と連携した「熊本見守り応援隊」の拡充など、取組みを強化していきたい。

○大西市長

知事から御発言いただいたが、熊本市でも、阪神淡路大震災などの事例から、住まい再建後の被災者の、慣れない地域での孤立や健康状態の悪化を防ぐ取組みが重要だと考えている。本市の災害公営住宅では、入居の1～2ヶ月前から、入居者と地元自治会等による交流会の開催を始めており、入居前からのコミュニティ形成支援を進め、安心して居住できる環境づくりに取り組もうとしている。先日、報道もされたところであるが、引き続き取り組んでいきたい。また、各区と自治会等の地域組織やボランティア団体等の連携による見守りの仕組みや地域交流の機会づくりを進めるなど、お互いさまで支え合う地域づくりに取り組んで参りたいので、御支援のほどよろしくお願いしたい。

○朽木市議会議長

被災者の住まい再建については、さきほど説明のあった住まい再建に向けた4つの支援策に加え、今年度、新たな支援制度が創設されたことは、被災者に寄り添った内容であり、非常に評価できるものと思う。

住まい再建にかかる取組みは、まさにこれからが正念場と思っている。そのような中、所有地の資産価値が低く自宅再建が思うように進まない、あるいは、処分したくてもできない事例や、災害公営住宅の立地が離れておりこれまで住み慣れた土地から出て行くことへの不安などを耳にする。また、母子世帯や障がい者などの配慮が必要な方々に、一刻でも早く災害公営住宅の提供ができないものかとも思う。

時が経つごとに状況が変わりニーズも変わってくる中、残りの限られた期間の中で、被災された皆様の意見を聞きながら一日も早く恒久的な住まいの確保が出来るよう、県・市が知恵を出し合い、住まい再建に向けた支援をより丁寧に進めていただきたい。

○蒲島知事

本日の議論で、被災された方々の恒久的な住まいの確保が最重要課題であるとの認識を県・市で共有できた。今年は、地震発生から3年となる。すべての被災者の住まい再建を果たすうえで大変重要な1年になるとの認識のもと、新たな延長要件も運用しながら、被災者お一人お一人の状況に応じた住まいの再建に、県・市が一体となって取り組んでいくことが重要との方針を共有できた。

また、災害公営住宅については、熊本市では今年12月までに全326戸の整備を完了、県全体においても来年春の完了を目指し、できるだけ早く被災者に提供していくことを確認することができた。

住まい再建後の地域コミュニティの形成についても、その重要性についてお互いに認識を共有し、連携して取組みを強化していくことで合意できた。

この点について、よろしくお願いしたい。

議題2 国際スポーツ大会（ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会）の推進について

議題2の現状・課題について、資料2に沿って事務局から説明。

○大西市長

熊本県と熊本市は、今年開催される2つの大きな国際スポーツ大会の開催にあたり、既に推進事務局を設置し連携して取り組んでいるところ。大会の成功へ向けた機運醸成のため、様々な形で情報発信を行っているが、このような大会を控え、世界から熊本への関心が高まっていると感じるし、熊本の魅力のみならず、熊本城の復旧状況をはじめ、熊本地震からの復興を伝える大切な機会と捉えている。

熊本城の復旧に関しては、これまでも県から様々な御支援をいただいております、感謝申し上げます。県をはじめ、県内外の多くの方からの御支援により熊本城の復旧も順調に進んでおり、今後、特別見学通路の整備と併せ、観覧可能なエリアを順次拡大していきたいと考えています。2019年は国際スポーツイベントの開催とともに大天守の外観も復旧することから、特別公開を秋に実施することとしています。スポーツ大会と併せ、熊本城が復旧していく姿を間近で見させていただき、熊本の歴史・文化の魅力、震災から復興していく力強い姿を実感していただきたいと思っています。この点についても、県・市連携で進めていきたい。

○蒲島知事

熊本城の復旧に向けては、県内外から多数の御寄附をいただいている。これからも長い期間続く復旧に、こうした寄附金を継続的かつ有効に活用させていただきながら、引き続き県と市で連携して復旧を進めていきたい。熊本城の特別公開と併せ、特別見学通路の整備についても、引き続きよろしくお願ひしたい。

誘客対策についてだが、現在、ラグビー6万人、ハンドボール30万人の観戦を目指してプロジェクトを進めている。これは是非、達成したい目標である。今後は、熊本商工会議所、熊本経済同友会、県内企業など経済界の協力も得ながら、あらゆる場面で大会をPRし、本番に向けて盛り上げを加速していきたい。

また、97年の男子大会でも盛り上がった子どもたちの「一校一国運動」は、大変夢のある効果的な取り組みだと思っている。女子ハンドボール世界選手権の全96試合の中で、子どもたちが観戦できる平日昼間の試合は、そのほとんどが熊本市内の会場で実施される。熊本市内の学校に在籍する子どもたちをはじめ、県・市が連携して取り組みを進めていきたいので、よろしくお願ひしたい。

さらに、大会会場や観光地へのアクセス道路について、植樹帯の改良や除草対策などの景観改善を図ることも、大会にお越しになるお客様へのおもてなしとして重要で

あるので、連携して取り組んでいただきたい。

○大西市長

熊本城の特別公開、周辺文化施設の連携ということで申し上げますと、熊本博物館が12月1日にリニューアルオープンし、改修を機に、多言語化の整備を行っている。大会開催時期には、熊本博物館でも熊本城下の歴史をたどる特別展を開催する予定である。また、この大会時期を含めた熊本城周辺のイベント開催に合わせ、開館時間の延長やナイトミュージアムということで、夜にも博物館にお越しいただけるような取り組みを実施する方向で検討している。つい先日も、ロケットの打ち上げのパブリックビューイングを行ったところだが、このようなことにもチャレンジしながら多くの方に来ていただきたいと思っている。

そして、知事からお話のあった「一校一国運動」の推進ということでは、世界トップレベルの試合を間近で観戦することは、子どもたちが夢や感動を抱き、未来への希望と生きる力を育む絶好の機会であると捉えている。県教育委員会と市教育委員会とが連携して、熊本市立の小中学校、高等学校、特別支援学校等による学校観戦に積極的に取り組んでいきたい。また、参加国に関する学習等を通して、国際理解を深めるとともに、より身近に世界を意識することで、グローバルな視点が深まるのではないかと感じている。さらに、選手たちとの交流が実現すれば、国際理解をさらに深めることになるし、子どもたちにとっても一生の思い出になると思うし、今後の将来に向けても国際的な感覚が養われる絶好の機会だと思っている。是非我々も一生懸命推進していきたい。

会場や観光地などへのアクセス道路の改善だが、熊本市においても、熊本駅や空港等と大会開催地を結ぶ幹線道路、また、中心市街地の道路において、舗装の修繕や植樹帯の改良などを重点的に実施する予定である。植樹帯の改良では、中央分離帯に雑草が繁茂しているため、これを抑制する防草対策を実施し、通行環境と沿道景観の向上を図りつつ、将来的にはメンテナンスコストを縮減することを狙いとしている。傷んだ道路を補修するという意味では、震災からの復旧・復興という面でも大きいと思っているので、県とのさらなる連携を図って参りたい。

○蒲島知事

熊本駅や空港、八代港など熊本の陸・海・空の玄関口が整備される中、今回の大会は国内外からたくさんのお客様をお迎えする貴重な機会である。大会の成功を通じて得た経験をレガシーとして継承し、アジアだけでなく世界中の外国人観光客に熊本を訪れていただけるよう、連携していきたい。

○大西市長

知事も触れられたインバウンド対策と MICE 戦略ということで、国際スポーツ大会

はインバウンドを拡大する大きなチャンスであり、多くの外国人観光客の来訪が予想される中、おもてなし環境の整備は喫緊の課題と認識している。民間施設における受入環境整備については、国も補助制度を設けているが、補助率が低いなどの制約が多い。そこで、熊本県の復興基金を活用させていただき、トイレの洋式化やキャッシュレス化、多言語対応などよりきめ細かな助成制度を創設することで、ストレスフリーの受入環境整備を促進する。

そして、プロモーション活動としてだが、これらの大会を熊本の魅力を発信する大きな機会と捉え、熊本の知名度の向上を図るため、県と連携し、欧米豪州というアジア以外の国もターゲットとした動画やWEBサイトを制作するなど、デジタルマーケティングを活用したプロモーションを展開している。また、本市は、観光客に再度訪れていただくため、「侍」・「武道」を通じた熊本の文化の紹介や体験コンテンツづくり、「食」を通して夜を楽しむ仕組みづくりを行うなど、県内各地の観光地と連携した周遊ルートづくりにも取り組んでいきたいと考えている。さらには、大会期間中に熊本を訪れるメディア等に対し、県市の観光地を巡るモニターツアーを行うことなどにより、大会後を見据えたプロモーションを展開できればと考えている。

もう1つ MICE 戦略ということで申し上げますと、現在、阿蘇くまもと空港ビルの建て替えや、熊本市内では桜町地区における熊本城ホールの整備など、熊本の利便性を大きく向上させる都市の再開発が進んでいる。加えて、今回のような大規模国際スポーツ大会を成功させることは、熊本の MICE 誘致においても、ブランド力の向上につながり、大会に来ていただいた方々を通じてさらに新たな MICE を呼び込むことにつながっていくと思っている。そこでは是非、県・市が連携し、国際スポーツ大会で培った経験を活かした各種スポーツ大会、学会、コンベンション等各種イベントの誘致を行うとともに、観光客の誘客促進につなげていきたいと思っており、連携を深めていきたい。

○蒲島知事

その他にも、ソフトの分野でも熊本は強いものがある。例えば「くまモン」は、キャラクターの好感度調査において3年連続の全国1位で、トトロやミッキーマウス、ドラえもん、くまのプーさんなどを抜いて1位になっている。是非、皆でくまモンを通じた熊本の盛り上げや発信をしていきたいし、当然、新たに加わった「ONE PIECE」も参加していいのではないかな。

○朽木市議会議長

ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会の開催まで1年を切ったにもかかわらず、まだまだ熊本での盛り上がりが欠けているような気がする。そのような中、学校における「一校一国運動」の展開は、機運の醸成に有効な取り組みではないかと感じる。また議会としては、昨年秋に開催した熊本県市議会議長会におい

て、本市で開催されるラグビーワールドカップの対戦国であるウェールズ政府から外務担当官をお招きし、ウェールズに関するプレゼンテーションの場を設けるなど、県内での機運の醸成を図ってきたところである。

一方で、ラグビー6万人、女子ハンドボール世界選手権大会30万人という観戦者の目標が掲げられているが、会場等へのアクセスに関して懸念している。取組みの中で、アクセス道路の景観改善はあるものの、熊本に来られる方が、どこからどういう手段で熊本に入ってくるのか、宿泊地から会場へのアクセス等についてどういう対策を考えているのか。昨年秋に大分で開催されたサッカーの日本代表戦の二の舞にならないよう、駐車場の確保並びに渋滞対策を講じて欲しいと思っている。

いずれにしても、これを機に、県・市が連携し、少しでも多くの人を本市・本県に迎え入れ、開催地「熊本」の元気な姿をアピールできればと思う。熊本市議会としても、機運の醸成はもとより、大会の成功に向け、行政と一体となって取り組んで参る所存である。

○森県議会副議長

女子ハンドボールについて、さきほど誘客対策について案が示されたが、昨年のアジア選手権では2万5千人くらいしか観客が来なかったと聞いている。新聞等でも、地元の新聞は大々的に書いているものの、全国紙では決勝のときに9行ほど、スポーツ新聞に至っては全く取り上げられていない。もう少し広報を強化しないと今年の本大会の報道が漏れてしまうのではと危惧しており、対策を検討してほしい。

○小野副知事

外国人の誘客に関して、知事から経済界の協力も得ながらという話があったが、もう1つ大事なのが大学との連携である。大学には多くの留学生がいる。特に熊本大学は留学生のバラエティが豊富で、例えばハンドボールの強いカザフスタンとか、幅広い国から留学生が来ており、スポーツ大会の参加国からの留学生もいらっしゃる。私どもも既に協議を始めているが、せっかく熊本に多くの留学生がいらっしゃるので、そういった方々に参加してもらえるよう、是非熊本市も一緒になって取り組んでいただければと思う。

○大西市長

大学の留学生との交流というのは、非常に大きいポイントだと思う。熊本市では、国際交流会館が外国人の方の拠点となっているので、ここを運営している事業団等や各大学の留学生の皆さんとも連携していきたい。スポーツ大会を契機にネットワークを広げていくということは重要なので、力を尽くしていきたい。

○田嶋副知事

お互いの共通認識ということで、さきほど市長からもお話のあったように、この2019年のスポーツ大会を迎えるにあたって、おもてなしの観点から、アクセス道路の景観対策というのは、市も特段の措置ということで、県でも予算面でかなり厚い措置をすることになっている。熊本市内の国道・県道は市の管理となっており、県管理の道路との境目で切れたりしないように、しっかり現場レベルでの連携に気をつけていきたい。よろしく願います。

○多野副市長

田嶋副知事からあったように、せつかくこの調整会議の場でいろいろな連携を図っても、現場レベルで途切れてはいけないと思うので、その点について我々もしっかりと頑張っていきたい。

○植松副市長

やはり幅広い盛り上げが必要。「一校一国運動」など横断的に頑張っていきたい。よろしく願いたい。

○蒲島知事

ラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会の2つの国際スポーツ大会を大成功させるため、引き続き、県・市が連携して取り組んでいくことを、改めて共通認識として得ることができた。

大会成功に向けては、特に、ラグビー6万人、女子ハンド30万人の観戦者数の目標を達成するため、行政や民間の枠を超えたさらなる機運醸成を図ることが大変重要である。その他、子どもたちの「一校一国運動」の展開にも、県・市が協力して取り組んでいくことを確認できた。

さらには、熊本の陸・海・空の玄関口の整備が進む中、大会で得られた経験をレガシーとして継承し、熊本のさらなるインバウンドの獲得につなげていくことで合意できた。

議題については以上だが、その他に何かあるか。

○大西市長

本日午前中の市長定例記者会見でも発表させていただいたが、「第4回アジア・太平洋水サミット」の誘致にこれまで取り組んできて、このたび熊本市での開催が決定した。2020年10月19日から20日に、新しく整備する熊本城ホールをメイン会場として開催する。この会議は、アジア・太平洋の49ヶ国の首脳及び閣僚級の皆さんが出席されて水問題について話し合う国際会議であり、開催にあたっては県からの御協力をお願いしたいと思っている。アジア・太平洋水フォーラムと熊本市との共催にな

るが、かなり大規模な国際会議となるので、是非成功に向けて県のお力添えをいただきたい。

○蒲島知事

今回は県・市調整会議が設置されて2回目の会議であった。短い時間の中で、有意義な意見交換ができたと思う。引き続き、議会も含めた県・市のトップ同士が率直に意見を交わすことで、お互いの連携を深めていきたい。ありがとうございました。

(以上)